

阿弥陀如来立像 1 軀

あみだによらいりつぞう

北海道指定文化財

所有者 天融寺(てんゆうじ)

指定年月日 昭和 34 年 2 月 24 日

檜材 寄木造(よせぎづくり) 漆箔像(しっぱくぞう)

像高 77.5 cm

修理の際、体内から建保2(1214)年と記された願文(がんもん)が発見され、鎌倉時代作の確証ある像として注目されている。白毫(びやくごう)や玉眼(ぎよくがん)に水晶を用い、上品下生印(じょうぼんげしょういん:右手親指と人差し指を接し、ひじを曲げ、左手親指と人差し指を接し、体に沿って下げる型)を結ぶ来迎仏。放射型の傘後光(かさごこう)と台座は後代のものである。

明治 38(1905)年、この寺を創建した新羅天融が京都の仏師から譲り受けたといわれる。

安阿弥快慶(あんなみかいけい)の作と伝えられる。

※ 通常、一般公開は行われておりません。